

# 肉厚・大型新品種 「北研788号」紹介

シユ会  
マッ協  
サン生

全国サンマッシュユ生産協議会は2日、宇都宮市で第30回記念全国大会を開き、(株)北研が自然栽培用の新品種「北研788号」の特徴や栽培方法を

紹介した。

「北研788号」は、昨年3月に試験販売を始め、2017年春から本



北研の自然栽培用新品種「北研788号」(2日、宇都宮市で)

格販売を始める。自然栽培で秋から春にかけて発生させる品種で、肉厚・大型。LからMサイズの大型きのこが終盤まで安定して発生する。培養積算温度は2400度以上(20度で120日以上)と培養に時間がか

かるが、菌床の上面や上部に芽を作りやすく、上面・半上面栽培に向く。同社食用菌類研究所の担当者は「空調栽培についても試験しているが、現段階では自然栽培を推奨している」と話す。管理の仕方や刺激の与え方

によって、発生数や大きさを調整でき、幅広い生産者が利用できると話した。これまでの、各地の栽培事例も紹介した。

このほか、既存品種の栽培のポイントや、開発中の有望2品種も紹介。有望2品種のうち「開発株A」は、中型きのこが80日程度の短期間で発生し、高収量になる。空調栽培での全面栽培向け。

「開発株B」は、全面栽培向けで肉厚で硬いきのこが特徴。積算温度が2000度程度。初回から中々大型のきのこが発生する。販売するかどうかは決まっていない。

全国大会には生産者ら700人が参加した。3日まで。